

新シリーズ・第5弾

★歩きやすい行程

縄文ロード “鉢巻土偶の道” の謎を歩く

（町田市忠生遺跡編）

■日 時：2017年6月24日（土）

■集 合：小田急線「町田駅」

東側改札前のカリヨン広場 **9:45**

■解 散：町田街道の中村不動付近ほかバス停**15:45 頃**

■参加費（資料代、保険料含む）：一般は**1,000円/1人**
団員**700円**（団員家族は2人で1,000円）

■その他：（弁当）、飲料、雨具等、各自ご持参ください。

事前申込不要。

当日現地受付。

雨天の場合は基本的には中止。小雨の場合、実施することもあるので、当日の朝7時30分までに下記へお問合せ下さい。

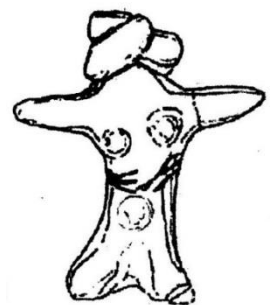
（宮田）

090-7002-3431

【内容】現在当団が追跡中の「縄文ロード」の沿線の複数の遺跡から、共通する出土物も発見されています。鉢巻きの様なものを頭部に巻いた土偶もその一つ。川崎市麻生区「黒川遺跡」、町田市「忠生遺跡」、相模原市「川尻中村遺跡」、山梨県笛吹市の「桂野遺跡」のいずれからも出土していますが、これらの地点を線で結ぶと正に直線になり、武蔵に面した稲城市や川崎市麻生区付近から、多摩よこやまの道を経て、町田市西部～甲州盆地へと道が続いていたかのようです。また、北海道函館の著保内遺跡出土の中空土偶と極めて似た形象の土偶も町田市の「田端環状積石遺構」から出土しており、町田～北海道という長距離の文化交流の道があったとすれば、その中間地域からも「鉢巻き土偶」が今後発見される可能性も充分ありそうです。

縄文遺跡地帯である町田市の忠生や木曾町はちょうど「境川水系＝相模湾水系」と「鶴見川水系＝東京湾水系」の中間に位置します。

この鉢巻き土偶が教えてくれるものは何かを考えつつ、現地を探りたいと思います。



鉢巻き土偶のフォルム
（町田市忠生遺跡から出土）



【コース】都合により変更の場合有り

小田急線「町田駅」東側改札前のカリヨン広場に**午前9時45分集合**（*10時ではないので注意）
＝町田バスセンターから路線バスで忠生公園前バス停下車～忠生地区の遺跡群（彫刻付大型石棒や鉢巻き土偶ほか出土地）～町田街道付近の飲食店で自由昼食～奥州廃道～町田市考古資料室（見学）～尾根緑道～町田街道の中村不動付近ほかバス停（町田駅、多摩境駅、淵野辺駅方面へ）。
約5キロM。解散は午後3時45分頃。